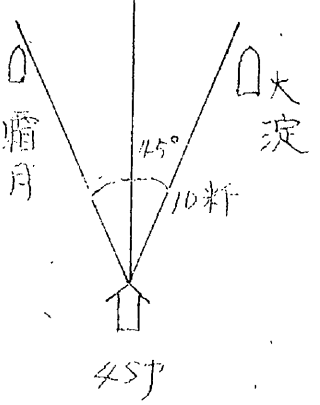


25 1710 1740		25 1545
敵機第四次來襲ハ○機之ヲ撃手壞ス	第六群(日)向 霜月ニ對シ合同ヲ命ジハ 三〇頃合同ス爾後針路ヲ〇度トナス	本二十五日ノ率制作戰中〇七三〇ヨリ一五三〇迄 ノ間ニ於テ敵機延三〇〇機ト交戰多數機ヲ撃 墜セルモ我モ亦逐次ノ被害ニ依リ遂ニ瑞鶴、瑞 鳳、千歲、千代田、秋月、沈没 多摩ハ被雷 一〇最大速力一三節二五〇地点ヘカヘ八ヨリ單 獨中城灣ニ回航ス 現在敵尚數機觸接中今ヨリ兵力ヲ集結シ 補給点ニ回航セントス 一七〇〇ノ位置地点ヘンテ 33 備考 千代田ニ關シテハ三〇日 訂正電アリ

25 1915	25 2000	25 2010
反轉敵ニ向ヒ之ヲ撃滅セントス ナル旨報告アリ直ニ夜戦準備ヲ完成次第 十鈴ヨリ一九〇五及一九一〇敵水上艦艇ト交戦中 瑞鶴及千代田ノ救難ニ當リシlag(初月)及五	第四次空襲日没以後敵ノ雷撃機ヲシキ編隊ニ 觸接ヲ受ケタルモ二〇〇〇之ヲ離脱ス	スベシ ハ今夜乗ズベキ好機アレバ殘敵ヲ捕捉撃滅 GF機密ニ五五六七番電 GF電令作第三七四號 余餘ノ部隊ハ右ニ策應スベシ 今夜夜戦ノ見込ナケレバ KMB IYBハ各指揮官所定 ニ依リ補給地ニ向ヘ

26.

		25 2041	25 2130
二三三〇迄搜索セルモ敵情ヲ得ズ	初月ニ對シ敵ノ占位側ヲ問ヒ合ハセルモ返サシ	發^{KAMB}指揮官へ二五二〇四一番電へ 初月交戦中トノ報ニ接シ大淀日向伊勢霜月ヲ率ヒ直ニ反轉敵ヲ撃滅セントス 二〇〇〇ノ地点ヘンハ24	大淀日向伊勢 霜月ヲ率ヒ反轉針路ハ五度速力一六ノット 敵ニ向フ 

25
2400

一途中若月ヲ合同シ若月ヨリ得タル敵情左ノ
通初月若月桑ハ瑞鶴瑞鳳枚難中五〇〇
頃敵水上艦艇約十隻(大巡ニ戦艦ヲシキモノ
ニ及ビ水戦一隊程度詳細確ナラズ)ニ東方ヨリ
攻撃ヲ受ケ若月桑ハ急速避退初月ハ煙幕
展張裡ニ交戦スルヲ認メタルモ爾後消息不明
判決

一右事情茲ニ當時ノ彼我地点及我が搜索針
路ヨリ推スルニ敵ハ我が反轉中北上通過セルカ
又ハ南方ニ避退セルモノト認ム
ニハ會敵ヲ豫期シツツ北方ニ航シ敵ヲボメ
トス

二十五日敵兵力配備狀況別圖第六參照

27

26
—
0800.

二十六日朝ニ至ルモ敵ヲ見ズ

電令作第一六號(機密ニ六〇八〇七番電)

一、^{KaMB}大淀日向 伊勢霜月若月ハ左ニ依リ奄

美大島ニ回航ス二十六日一二〇〇ヘワワ〇〇一七

〇〇ヘワセ31 二十七日〇四〇〇ヘワク14 正午頃

奄美大島着

二、初月ハ速ニ本隊ニ合同スベシ五十鈴、榎、桑、杉

桐ハ便宜奄美大島ニ回航スベシ

多摩ハ要スルハ奄美大島ニ於テ補給ノ上呉ニ

回航スベシ

榎ハ奄美大島呉間多摩艦長ノ指揮ヲ受ケ

其ノ護衛ニ任スベシ

三、秋風ハ二十七日早朝本隊ニ合同スベシ

26 1500			
28. KaMB 戦闘概報其ノ三(機密ニ六一六。ニ番電) 二十五日一七〇〇頃更ニ敵ハ。機ト交戦之ヲ撃壊	メラル 秋風ハGF電令第四八八號ニ依リ Soag ニ復級セシ 久島西方四〇哩ニ於テ仁策丸被雷沈没ス 護衛艦第一三二海防艦被雷二十五日〇四三〇屋 二十日〇四一五足摺崎ノニ。五度ニ四分ニ於テ KaMB 第二補給部隊ノ行動	潜ヲ回避ニ十七日一二〇。奄美大島ニ入泊ス ヲ經テ南西諸島北側ヲ通航途中数次ニ亘敵 KaMB 八二十六日〇六〇〇NWニ変針宮古島列島ノ海峡	補給部隊指揮官ハ海防艦ヲシテ奄美大島北 口附近ノ對潜掃蕩ニ任ゼシムベシ

後第六群ト合同北上中敵編隊ニ觸接ヲ受
 ケタルモ二〇〇〇頃之ヲ離脱セリ
 九三〇頃^{6lag}(初月)及五十鈴ハ空母救難
 作業台地点ヘヒテ附近ニ於テ敵水上艦艇ト
 交戦ストノ報ニ接シ大淀日向伊勢霜月
 若月ヲ率ヒ敵撃滅ヲ期シ勇躍南下正子
 頃迄搜索セルモ敵情ヲ得ズ
 更ニ北方ニ歸航二十六日午前ニ及ヘリ
 甬後^{KaMB}電令作第一六號ノ如ク行動中初月
 ハ現在消息不明調査中ナリ
 當隊ハ二十日出撃以來通信牽制及敵^{KaB}ニ
 對スル肉迫攻撃前衛ノ進出等極力敵機動
 部隊群ヲ北方ニ牽制其南下ノ防止ニ努メ

GF機密ニ七一五二〇番電	27 11 1850 GF電令作第三八一號（機密ニ七一五二番電） 一、4lag 6lag ヲ kaMB ヲリ除キ ZYB ニ編入 二、3lag ヲ IYB ヲリ除キ ZYB ニ編入 三、大淀ヲ kaMB ヲリ除キ IYB ニ編入（IYBノ旗艦トス） 四、前諸號ノ各艦ハ速ニ指揮官所定ノ地ニ回航スベシ	YB作戰ニ策應セルモ（航空戦果尚不詳）兵カノ相當多数ヲ失ヘルハ遺憾ニ不堪 杉桐ハ二十四日夜 kaMB 西航中溺者救助ノ爲分離セルガ甬後 kaMB ノ変針通達セズ合同ニ努メルモ燃料欠亡シ補給ノ爲二十六日〇九三〇高雄着二十九日大島ヲ經テ三十日吳ニ於テ合同セリ
--------------	---	---

27 2200	27 1900	27 2030
kaNB 一GF信電令作第三號ハ機密ニセ三五八番電 一GF信電令作第三八一號ニ依リ大淀ヲ カ YBニ4lag 6lagヲ同ジク ZYBニ編入セラル	大ノ寄與ヲ爲シタルヲ多トス 犠牲ヲ厭ハズ作戰目的ニ邁進全軍ノ作戰ニ多 機動部隊本隊が極メテ困難ナル作戰ニ從事シ 發GF司令長官宛 F 師 GF機密ニセ一五二六番電	GF電令作三八一號ニ關聯 kaNBハ NSニテ重油満載後大 淀 4lag 6lag ハ直ニM方面ニ進出 4st 第三十一戰隊ハ内 海西部ニ回航特別攻撃隊兵力其ノ他搭載ノ 上M方面ニ進出 4st (母艦及 8st 欠) ハ YBニ3/5ハ南西 方面部隊ニ編入セシメラルル予定

大淀 若月ハ甬後 11B 21B 各指揮官所定ニ依リ
 行動スベシ
 霜月ハ内海西部ニ於テ急速修理完成ノ上行
 動スルモノトス

二 明日 1000 將旗ヲ日何ニ移揚ス

3/5 司令官ハ便宜五十鈴ニ旗艦ヲ復鰲スベシ

三 及霜月ハ二十八日 1300 發内海西部ニ回航急速出

撃準備ヲ完成ス

四 杉桐ハ要スレバ奄美大島ニ於テ補給後内海西部

ニ回航スベシ

五 補給部隊ハ補給終了セバ二十九日發吳ニ回航修

理ノ上後命ヲ待テ

11aF 機密ニ七二三五五番電

27
2300

宛 戸 1YB 戸 2YB 通報 戸 GF 戸 GKF
發 1KdF 參謀長

GF電令作第三八一號ニ依ル當該兵力現狀左通
6lag 司令驅逐艦初月今尚消息不明

秋月沈沒涼月吳ニ於テ修理中

若月若干、被害アルモ進出可能彈藥八割

2lag 霜月大破孔要内地修理

冬月吳ニ於テ修理中

三大波被爆彈アルモ進出可能

主砲對空彈藥二割 高角砲八割 機銃十割

飛行機使用不能

奄美大島在泊中實施セル作業

一大淀若月、再出撃準備

たかぬ丸											二各艦ノ補給 供給艦
計	桐	杉	榎	桑	霜	若	五	大	伊	日	受入艦
八五七五	二〇〇	二〇〇	二四〇	三三〇	三一五	七二〇	九〇〇	一四一〇	九六〇	三三〇〇	搭載量
					月	月	鈴	淀	勢	伺	

21.

	28 1 1300	
戦闘概報、補足迄ニ訂正 KMB 戦闘概報其、四（機密ニ九一三一六番電） 一、二十四日當隊母艦飛行機隊、撃ケタル綜合戦 果左ノ通 正空母一隻確實ニ撃沈一隻大破撃墜グラ	タリ 同行動中関係各部ノ對潜警戒ノ協力ヲ得 KMB 4st（日向伊勢）3/s（五十鈴）桑（霜） 月ノ奄美大島發二十九日ニ二三〇吳着	三枚難者、整理指定艦ニ移乗ス 四内海西部ニ於ケル出撃準備ニ必要ナル事項及 各艦損傷ヲ調査シ概要ヲ所要ノ向ニ通報シ 其ノ準備ヲ依頼ス

マン六機(内不確實一)被害未詳ナル点アルモ
 約十三機其、他詳細六五三空菲島派遣隊指
 揮官機密三八〇八五番電(別紙二十四日ニ於ケル
 航空戦果参照)、通
 誘致戦中各艦撃墜機数母艦三隻駆逐艦四隻
 分ヲ除キ一三七(重複セルモノアルヲ以テ實機数約
 1/3ト認ム)

KAMB 機密三〇〇八六番電
 發 KAMB 指揮官
 KAMB 機密二五二六四七番電 KAMB 戦闘概報中千代田沈
 没トアルヲ左ノ通改ム
 千代田ハ二十五日第六群ニアリテ群指揮官四航
 戦司令官指揮、下ニ作戦中、處敵機ト交戦

22.

一〇〇地点ヘカヘニ於テ被弾大火災浸水大傾斜
 航行不能トナリシヲ以テ日向次デ五十鈴ニ依リ
 曳航ヲ試ミタルモ反覆來襲スル敵機ノ妨害ヲ
 受ケ成功セズ一三〇遂ニ第六群指揮官ハ五十
 鈴、榎ヲシテ千代田ヲ處分シタル後北方避退ヲ
 命ゼリ五十鈴、榎ハ爾後數回ニ互リ千代田
 ニ近接乗員ノ收容ヲ試ミタルモ敵空襲頻繁
 ニシテ目的ヲ達セズ依ツテ五十鈴艦長ハ一六〇
 晝間、處分ヲ断念一時北方ニ避退シ一七五
 反轉千代田ノ位置ニ向ヒタルモ途中一九〇有力
 ナル敵水上部隊ト交戦再度避退ノ已ムナキニ
 至レリ(當時千代田ノ推定位置南方約十五
 哩)尚晝間五十鈴北上中千代田爆發ヲ

八吳入港後採リタル處置
 (1)次期出撃準備ヲ極力促進ス 出撃期日ヲ上月八日ニ

29 1 2300	
機密ニ九二三五八番電 發 師參謀長 宛 P 24P P 24P 25P (鹿屋 四) P GEB 多摩ハ二十五日一七三〇ノサ四エハニ於テ分離シ 單獨吳ニ回航ヲ命ゼラルタル所未ダ入港シアラス 飛行哨戒ノ際搜索ニ関シ配慮ヲ得度	シキ黒煙ヲ認メタルモノアリ 右前後ノ事情ヨリ推シ千代田ハ航行不能後 敵飛行機又ハ水上艦艇ト交戦遂ニ壯烈ナル最 後ヲ遂ゲタルモノト認ム

30 0000	27 2300	概定シ出撃ノ際ノ輸送要領ヲ定ム
4sf KAMB 信電令作第四號 隼鷹龍鳳 634sf 欠ノ及 3/s ハ急速整備ノ上別 ニ指示スル所ニ依リ 3/s 司令官指揮ノ下ニGF電 令作第三八二號ニ依ル特別攻撃隊兵力ノ菲	GF機密ニ七一七一五番電 GF電令作第三八二號 前半省略 六 KAMB 一部ハ補給終了後内海西部ニ回航 4sf (隼鷹龍鳳 634sf 欠ノ) 3/s ヲシテ主トシテ特別攻撃隊 兵力ヲ速ニ菲島方面ニ急送セシムベシ 右兵力菲島到着ノ時機ヲ以テ列 (隼鷹龍鳳 634sf 欠ノ) 3/s 3/s ヲ NSB ニ夫々編入ノ予定	

島方面急送ニ任ズベシ	参 各艦ノ損傷狀況 次表ノ通	艦名 狀況	大淀 命中彈ニ依リ中部上中甲板ノ一部ニ小破口 アルモ戦闘航海ニ支障ナシ	日向 戦闘航海ニ支障ナシ	伊勢 至近弾数發ニ依リ相當多数ノ小破口並ニ舷側バル ヂノ一部壓入変形重油タンクノ一部ニ浸水重油移 動チ行フモ左傾斜約四度トナル入渠修理ヲ要 ス十一月八日完修出撃可能	霜月 左舷後部至近弾ニ依リ外板長サ約四米幅約 二米ニ互リ壓入変形経約七〇〇耗ノ水中破孔ヲ生
------------	----------------------	----------	---	-----------------	--	---

34

五十鈴	杉桐	多摩	榎	桑	若月	
高射装置轉輪羅針儀及水測天器關係電	前甲板命中彈一主操舵裝置一部破損	魚雷命中出シ得ル速力十三節其也未詳	發射管破損使用不能 量約二〇トン蒸氣管破損爲揚鍋機用不能 一罐ニテ出シ得ル速力二〇節重油タンク使用可能 一罐空命中彈一號罐及重油タンク一部破損残り	損傷ナシ	機銃彈痕多数アルモ戦闘航海ニ支障ナシ	ジ重油タンク内浸入重油タンク約三〇トン使用不能附近内側ビーム及隔壁一部桎屈湾曲入渠修理ヲ要ス

路一部破損ス	
涼月	七日修理完成八日出撃可能
冬月	十六日修理完成

(三) 十月八日出撃可能ノモ、

(大渡、若月) 八奄美大島ヨリ進出セリ

45f (日向、伊勢) 4lag (霜月) 涼月

3/5 (五十鈴、桑、桐、杉)

(三) 十月十八日頃出撃可能ノモ、

冬月 旗

(四) 6lag (初月) 多摩消息不明 (十月六日沈没ト認定)

(五) 爾後、3F航空戦力錬成方針在、通定

(六) 人事

- (1) 電令作第... 航機密三一九三番電
- (2) 航戰司令官ハ左ノ依リ内地所存航機密三一九三番電
- (3) 作戦ニ應スル如ク急速錬成スルヲ以テ之ヲ進出準備ヲ完成スベシ
- (4) 兵力各航空隊概テ三週間ノ錬成ニ依リ基地作戦可能ナル搭乗員一瑞雲訓練ヲ除ク
- (5) 概成期日 十一月十五日
- (6) 使用基地 大分基地
- (7) 各航空隊指揮官ハ前項搭乗員並ニ實用機全機一除瑞雲ヘテ速ニ大分基地ニ派遣スベシ
- (8) 司令官ハ左ノ依リ内地所存航機密三一九三番電
- (9) 議ニ應ジ所要ノ人員ヲシテ其指揮ヲ承ケンムベシ

九、戦果

(一) 救難者

瑞鷗乗員 准士官以上四十七名 下士官兵約八百十五名ヲ吳三ツ子島検疫所ニ残リ全員准士官以上九十八名下士官兵一千二百九十名ヲ大竹海兵團ニ收容ス

(二) 入院患者

准士官以上十八 下士官兵三百十六 軍属一
(三) 戦死者概数 四千五百

(七) 機密保持

所要期間外出信書、發信ヲ禁ジ機密保持ニ
関シ所要、向ニ徹底セシム

今次捷號作戰ニ於テハ ^{KAMB}ハカネテ GF 捷號作戰要領
 ニ則リ訓練準備セル兵力ハ他ニ編入セラレタル爲臨時
 糾合ノ兵力ヲ以テ ^{IYB}ノ作戰ニ策應シ菲島東方海面
 ニ於テ敵 ^{KaB}ノ牽制誘出及攻撃ニ任ゼリ
 敵ハ夙ニ我配備ヲ概知シ且ツ大膽不敵ナル ^{KaB}ノ配備
 ト多数ノ潜水艦ヲ以テ我基地航空圈内奥深く侵入
^{IYB}ニ近迫スルト共ニ狭長ナル水路ヲ扼シ ^{IYB}ノ撃滅ヲ期シ
 タルモノ、如ク容易ニ我牽制ニ應ズル事ナク執拗ニ其ノ戰
 略配備ヲ固執セリ之ガ爲 ^{IYB}ハ相當ノ苦戦ヲ爲シ ^{IYB}作
 戦ノ必成ヲ期スル ^{KaMB}ノ作戰モ又自隊ノ存亡ヲ堵シ敵ノ
 攻撃ヲ吸收スルト共ニ其ノ南下ノ防止ニ努ムルヲ得ザル
 ニ至リ牽制機動効果ハ二十五日ニ至リテ如實ニ露ハレ
 敵 ^{KaB}ノ誘出及南下防止ニ相當成功シタルモ之ガ爲受

百所

見

今次捷號作戰ニ於テ各部隊ノ擧ゲタル綜合戰果ハ
極メテ大ニシテ十二日來ノ基地航空兵力ニ依ル捷號作

ケタル我損害ハ予期セルモノナリト雖モ相當數ニ上レリ又飛
行機隊ハ其ノ主力各隊ヨリノ臨時編成ノモノナリシガ予
期以上ノ戰果ヲ擧ゲ得タリト認ム
之ヲ要スルニKAMBトシテハ苦戰裡ニ於テ先ズ所期ノ作戰目的
ヲ達成シIBノ作戰ニ相當資スル所アリシモノト認ム
(1) 敵ニ與ヘタル有形的戰果
正空母一隻 擊没 一隻 大破 擊墜機數百機以上
(2) 被害空母四隻 駆逐艦一隻 沈没消息不明輕巡
一隻 駆逐艦一隻 損耗機數約三〇機

戦、戦果ト相関聯シ敵ハ大ナル苦戦中ニアルト明ナリ
速ニ本戦果ヲ拡大スルヲ要ス

之ガ爲ニ母艦航空戦力ヲ消耗シタル今日基地航空戦力
ヲ急速整備進出セシムルト共ニ速ニ所要ノ地点ニ陸軍
兵力防備兵力及奇襲兵力ヲ急送スルヲ要ス

水上艦艇ハ現在損害ヲ蒙レルモノ多キヲ以テ此ノ際速ニ建
制ヲ建テ直シテ菲島ヲ中心トスル作戰ノ實施ヲ容易ナ
ラシムルヲ要ス

之ガ爲ニ戦局一轉スル迄ハ解隊モ已ムヲ得ザルモノト
認ム

(四) 水上部隊作戰能力

今次戦闘ニ於テ機動部隊本隊ガ二十四日ノ航空戦ニ
於テ航空兵力ヲ陸上基地ニ轉進セシメ爾後牽制作戰

ヲ行ヒタル情況ニ於テ二十五日ノ敵空襲ニ依リ相當大ナル被害ヲ蒙リ

當時警戒艦數ク然モ臨時編制部隊タリシヲ以テ敵襲下ノ輪形陣ノ保持困難ニシテ母艦掩護對空砲戰不如意ナリシ点ハ被害ヲ加大セル嫌ナキニアラザルモ航空兵力ヲ有セザル機動部隊本隊ガ敵ノ一方的攻撃ニ依リ極テ困難ナル情況ニ至リシコトハ水上部隊ノ作戰行動能力ガ航空兵力ノ協力ナクシテハ極メテ小ナルコトヲ明證セルモノト認ム

當時IB突入ノ千載一遇ノ戰機ニ於ケル牽制任務完遂上右不利ヲ豫メ覺悟シツ作戦ヲ指導セルモ防空火器ノミヲ以テ水上部隊ガ敵機ニ對應スルコトハ到底不可能ナルヲ痛感セリ

今後整兵上基地航空兵力第一主義ニ邁進スル要アリ
ト認ム

尚水上部隊ヲ作戰行動セシムル場合ハ最小限索敵力
ヲ附加シ敵ノ所在行動ヲ知り得ル如クスルコト絶対必要ナリ
二十五日午後敵ニ觸接セシメ得ベキ飛行機ヲ有シタラン
ニ夜戦ニ於テ敵ヲ捕捉撃滅ノ好機ヲ把握シ得タル
算アリタリト認ム

(ハ)牽制機動作戦ハ或ル程度ノ實兵力ヲ有スルニ非ザレバ有
効ナル牽制ハ困難ニシテ殊ニ敵ガ一定ノ作戰目的ヲ有シ
ソノ戰略配備ヲ固執スル場合ニ於テ然リトス
今次作戦ニ於テハ固有兵力タル^{632g}ZYBノ兵力ハ事情
已ムヲ得ザリシト雖モ他ニ編入セラレ^{634g}新ナル臨時編成
ノ兵力ヲ以テ同一作戰目的任務達成ノ任ヲ負ヘルガ作

戦指揮上相當ノ苦痛ヲ感ジタリ

(二) 二十四日ノ牽制機動ヲ有効ナラシメング爲ニハ KAMB ノ第一

次攻撃ハ FGB ト共ニ X-2 日ヨリ開始スベカリシモノト認ム

之ガ爲ニハ出撃ヲ一日早ムルヲ要アリシモノト認ムルモ當

時飛行機關係ノ收容編成等之ヲ早ムルヲ得ザリシ

情況ニアリ已ムヲ得ザルモノト認ム

(ホ) 我艦艇ノ新兵器特ニ電測・水測・對空兵器ハ前回

ノ「あ」號作戦ニ比シ格段ノ進歩ヲ見作戰及戰術上

資スル所大ナリシモノト認ム

但シ尚欠陥大ナルヲ以テ速ニ之ガ改善ヲ計ルノ要アル

ハ論ヲ俟タザル所ニシテ之ガ爲ニハ各隊艦ノ戰訓ヲ參

照セラレンコトヲ期待ス

(ハ) 母艦航空部隊ノ鑲成

母艦航空兵力ハ鍊達ナルモノニアラザレバ優勢ナル敵機
 動部隊ニ對シ強靱ナル作戦ヲ行ヒ之ヲ潰滅スルコト困
 難ニシテ結局敵ノ反撃ニ依リ不徹底ナル作戦ニ終
 ルコトハ、^ル號及今次作戦ノ經過ヲ見ルモ明ナリ
 晝夜間作戦自在ノ鍊度ニ到達セシメ得レバ夜間接
 敵攻撃ニ引續ク連續航空戦ニ依リ大戦果ヲ期待
 シ得ベシ今次作戦ニ先チ^{53rd}兵力ヲ基地ニ進出セシメ
 ラレ結局臨時編成兵力ヲ以テ作戦セシメラレタルヲ以テ
 航空戦ノ實施極メテ不如意ニシテ行動茲ニ電波輻
 射ヲ餘儀ナクセラレタルコトアリタリ
 (ハ)機動部隊編成
 今次作戦ニ於テハ已ムヲ得ザリシ事情アリタルモ三航
 戦母艦四隻ニ對シ伊勢、日向、大淀、多摩、五十鈴

二 参 考

(イ) 戦 訓

別 紙

外月型駆逐艦四隻 丁型駆逐艦四隻ヲ警戒
 艦トスル編制ヲ以テ作戰スルコトナリタルガ速力ハ伊
 勢型ノ編隊ニ十二節 航續力 丁型駆ノ二〇節
 二五〇。運ハ作戰行動ニ〇ニシテ燃料五〇%トナルニ
 制セラレ機動力ヲ發揮スルニ由ナカリ
 母艦部隊ヲ有効ニ使用スルニハ尠クモ二十四節以上ニ
 テ相當航續力大ナルモノヲ以テ機動部隊ヲ編成スル
 コト緊要ナリ

1813

80

(四)
天
氣
別
圖
紙

(略)

27

560

81

鮮



1821

82

第九類
砲戰及關係兵器施設

41

一噴進砲ハ大イニ期待ヲ持チタルモ、戦闘ノ結果ハ脅威
効果、外實撃効果殆ドナカリシ情况ナリ
射程、小ナルコト竝ニ精度、不良ナルハ最大ノ弱点ト認
ム

本兵器ハ各艦ニ搭載後日猶淺ク指揮官以下之カ使
用法竝ニ兵器取扱法十分手ニ入リタリト云ヒ得ザル
情况ニアリタリト認ムルヲ以テ今後改良ヲ加ヘ射法ヲ
研究演練セバ將來對空兵器トシテ十分威力ヲ發揮
シ得ルモノト認ム
尚砲側照準發射ヲ可能ナラシムル要アリト認ム

ニ今次ノ對空戦闘、如ク我ニ防空戦闘機ナク敵機ハ縱
横無盡ニ多数機ヲ以テ連續空襲シ來ル場合我ノ頼ミ

トスル所ハ各機銃(群)指揮官が無言ノ裡ニ艦長ノ
意圖ノ如ク適時適切ニ有効ナル射撃ヲ實施得ル能
カアルフト強靱ナル兵器アルフト之ナリ

今次ノ對空戰闘ニ於テハ一部ノ艦ヲ除キ射撃ノ練度
十分トハ云ヒ難ク機銃ニシテ射程外ノモノヲ射撃スルモ
追撃スルモノ等極メテ多ク從ツテ彈丸ヲ浪費スル傾
向大ナリ機銃(群)指揮官ハ平素十分技ヲ磨キ腹ヲ
練リ實戰ニ當リテハ彈丸ヲ有効ニ使用スル様ニ懸クル要
アリ又教練射撃ハナルベク多数回實施スル要アリト認
ム

二十五耗機銃ハ多数彈射撃ヲ實施シタルモ兵器ノ故障
殆ドナク強靱ナル威力アル兵器ナリト認ム

第十九類 運輸補給

曳航補給訓練ハ各艦ニ對シ出撃前是非共實施ノ要アリ
 今次作戦行動中各母艦ヨリ輕巡及丁型駆逐艦ニ對シ
 洋上補給ヲ實施セルニ一回ニテモ經驗ヲ有スルモハ概ネ順
 調ニ作業ヲ實施シ所要量ヲ略予定時間ニ補給シ
 得タルモ經驗ヲ有セザリシ五十鈴及桐ハ屢々曳索及ホース
 ヲ切断スル等作業意ノ如クナラズ辛ウジテ所要量ノ約1/3
 ヲ補給シ得タルノミニシテ燃料在庫量ノ關係上甬後、行
 動ニ制時ヲ受ケタルモノ大ナルモアリ

1825

86

第二十一類
通信及暗號

二	一	発着信者
Ka MB 各PP GF	5FGB 各PP 6FGB GF	受報者
高 大 警 海	Ka MB 高 大 警 海	機密電番號
二四一四三九	二四一三三八	本
機動部隊本隊信電令作第二號 第一軍隊區分トナセ 二前衛(24日向伊勢)6lag(涼月欠)4lag(霜月)ハ南方ニ進出好機ニ乗ジ殘敵ヲ攻撃ヲ滅スベシ		發 KMB 指揮官 KMB 二四五地点又アニシ攻撃隊全力(40x40 40x28) 發進地点ヲシニカノ敵 KMBヲ攻 撃ス當隊針路西速力ニ節敵情 ニ應ジ機宜行動ス

一本作戰中 KMB 發信ノ重要通信中左記不達電報ヲ生
セリ

4281

88

四	三	
GF	KaMB 戦 概	
大海		
二五〇九三七	二五〇八一五	
三、五〇〇頃偵察機二機ヲシテ日没頃迄地点フシニ夕附近ノ敵ニ觸接セシム 四、本隊ハ一六〇〇頃迄西航飛行機ヲ收容シクル後南東ニ向ヒ翌朝戦ヲ続行ス 敵艦上機約八〇機來襲我之ト交戦中地点ハシニ一三〇八一五 發KaMB指揮官 戦闘速報瑞鶴魚雷一本命中人カ操舵中瑞鳳爆彈一命中千歳傾斜速力十四節其ノ他二十節附近ノ航行差支ヘナシ。八三〇		

右原因ハ旗艦通信幹部ノ戦死セルト調査資料ノ一部ニ
失ニ依リ断定スルコト困難ナルモ概ネ左記諸項ノ重複セル結
果ニ依ルモノト認めラル

(イ) 番號一、二、三

(一) 旗艦瑞鶴ノ送信勢力不充分

(二) 使用電波ニ相當味方通信ノ混信アリ

(三) 電報通達確認ニ関シ電信部、通信指揮官間ニ錯誤

アリシモノノ如ク不達ノ旨司令部ニ通達セズ從ツテ之ガ

對策ヲ講ジアラザリキ

(四) 通信隊ニ於ケル受信情況ニ著シキ差異アル点ニ鑑ミ配員

五	
P ZAF ス コ ル	P GKF P IAF
P GF	
二四二五一	
發 FMB 指揮官	當隊攻撃隊一六〇〇頃以降ニコルスニ 級投スルコトアリ

上考慮ノ餘地アリシモノ如シ

四番號四五

瑞鶴被害ニ依リ應急電信機ニ依リ瑞鳳ヲシテ中継セシメ
タルモノニシテ瑞鳳幹部戦死ノ爲詳細不明

ニ前項ニ關聯要改善事項左ノ如シ

(1) 旗艦ノ変更ハ旗艦自体ノ通信力ヲ低下スルミナラズ錯
誤ノ原因トナル虞大且通信訓練實施指導上障害スル
處至大ナリ過度ニ頻々ト変更セザルヲ要ス

(2) 艦隊旗艦トシテハ防禦力、通信力強大ナル艦種ヲ選定ス
ノ要アリ

(3) 瑞鶴放送回数ヲ各通毎ニ調査スルニ概ネ三回以上ヲ必要
トセルニ鑑ミ作戰部隊ニ直接協力スベキ通信隊ノ受信能

三通信計畫

力向上ノ爲配員強化ノ要アリト認ム
 (二) 聯合艦隊司令部ハ可及的作戰部隊ト近接セル地点
 ニ占位スルノ要アリト認ム之ガ爲高雄及鹿屋基地通
 信施設茲ニ配員ヲ強化シ適時何レニ於テモ指揮ヲ
 可能ナラシムコト緊要ト認ム

(一) 酣戦期ニ至ラバ予備交信担任艦ハ令ナクシテ通信確達ニ
 關スル處置ヲ實施スル如ク一層責任ノ分擔ヲ具體的分明
 ナラシムルノ要アリタリ

(四) 戦術通信ハ發信者名(發信艦所名)ヲ明確ナラシムル爲
 共符ヲ使用セザル如ク改善ノ要アリ

(三) 聯合艦隊等大部隊ノ通信組織ヲ變更轉換スル場合ハ予メ

四、兵装及兵器

内容、予報、所要水晶片配布等周到ナル準備ヲ整
 ヌル後地域別、部隊別等適切ニ實施セサレバ作戦通信
 實施上重大ナル支障ヲ來ス虞アリ、Gf新電波組織ハ軍隊
 区分ノ累次変更等ノ爲、今尚徹底シアラザル向アリ

- (イ) 瑞鶴ハ「Gf一般短波」ニ依ル電報送信ノ場合無線「マスト」ヲ
 例シタル状態ニ於テハ通達セザリシモノ、如シ（短三號使用）
 (ロ) 瑞鶴受信空中線短少ノ爲感度低ク今次モ亦中途ヨ
 リ約一〇〇米受信空中線ヲ展張スルニ至レルモ對空戰
 闘ノ都度切断セリ母艦受信能力向上ニ關シテハ徹底
 的對策ヲ構スルヲ要アリ
 (ハ) 瑞鶴ニ於テハ兵器及施設ノ衰朽及整備上ニ起因セ

- リト認メラル左ノ如キ故障多カリキ
- (一) 管制線作動不円滑
- (二) 原因不詳ノ艦内雑音断續的ニ生起(一部ニヤ)
- 信號灯電源關係ト判明)
- (三) 試製中波及短波無線方位測定機ハ近距離ニ於ケル敵潜水艦ノ電波發射ヲ見タルコト少ク之ガ回避上價値ヲ如實ニ體驗スルニ至ラザリシモ中遠距離ニ於ケル精度予想外良好ニシテ特ニ短波測定機ハ九ニ式特受信機ニ比シ感度ニ乃至三程度良好ナル爲敵信傍受上利用シ得タル所大ナリ母艦兵裝トシテ適當ト認ム
- (ホ) BN裝置ハ出撃前日向ノ送信機不具合ナリシト大淀ノ實驗未済ニ依リ實用上ノ確信ヲ得ズ使用スルニ至ラ

ザリキ

將來之ガ活用ノ爲ニ相當ノ訓練ニ依リ兵器取扱ニ習熟
セシムルト同時ニ自己妨害除去ニ對シ一層徹底セル對策
ヲ構ズルノ要アリ

(ハ)艦船用トシテ一式超短波受話器ハ從來ノモノニ比シ格
段ノ優秀性ヲ示セリ

(ロ)BN裝置及中五號送信機ハ激動ニ依リ半田付部離脱
故障セルモノ多シ製作上參考ノ餘地大ナリ

(ハ)電信員練度ノ現状ニ鑑ミ艦船裝備送信機送話機
ハ水晶制御式トナスコト絶對必要ナリ

(ニ)あ號作戰戰訓トシテ實施セラレタル無線兵器轉落上空
中線展張強化對策ハ予想以上ニ有効ナリシコトヲ實
證セリ



- (又)十三號電波探信儀ハ概ネ所期以上ノ成果ヲ得タルモノ之
ガ活用ニ關シ更ニ左記考慮ヲ必要トス
- (一)艦船裝備所要數(最少限度)
大型巡洋艦以上 五基
小型巡洋艦以下 三基
- (二)對空見張用電探ハ十三號ニ統一(二十號廢止)ヲ
適當トス
- (三)十三號電探一基ニ對スル配員標準ハ長一、測二、傳
令一計四名ヲ適當トス
- (四)兵畧ノ個有能カハ裝備高ヨリモ寧ロ整備調整狀
態ニ左右セラルル處大ナリキ
- (五)電探活用ノ適否ハ有能ナル電探指揮官及各電
探指揮通信裝置ノ適否ニ左右セラルル處最モ大ナリ

- ✓ (ル) 電波探知機ハ極メテ有効ニ利用セラレタルモ尚將來左記改善ヲ要ス
- (一) 受信感度ヲ現用電探受信機程度ニ向上セシムル要アリ
 - (二) 音量調整ヲ更ニ微細ニ實施可能ナラシメ距離推定ヲ容易ナラシムル要アリ
 - (三) 指向性空中線ヲ二十一號電探空中線上ニ裝備セラルモノハ方向測定遅鈍ニシテ不便ナリ別個ニ裝備ヲ要ス
 - (四) ブラウン管指示裝置ヲ附加シ味方識別ヲ容易ナラシムルコト肝要ナリ
 - (五) 各種電探ニ電鍵裝置(出來得レバ交話裝置)ヲ附加シ味方識別可能ナラシムル如ク改善ヲ要アリ

五 航空機通信

- (1) 探知機適用ノ爲左記實驗調査シ味方識別上ノ
参考資料ヲ獲得シ置クコト緊要ナリ
- (1) 電探源ノ距離對高調波数
- (2) 味方各種電探ニ對スル受信特性
- (1) 一式空三號無線電話機ハ從來ノ兵器ニ比シ相等性能
向上シアルモ小型機ニ對スル作戰上ノ要求ハ到底從前
ノ如キ能力ヲ以テハ充足シ得ザルモアリ航空機搭載
兵器トシテニ五〇哩以上確實通達能力ヲ有スル無
線電話機ノ急速出現ハ單ニ母艦兵力トシテノミナラス
基地航空部隊トシテモ極メテ切實ニ要求セララル所
ニシテ之が成否ハ現下ノ航空戦力ヲ左右スル一大鍵鑰

ナリト認ム

母艦航空部隊 航空隊通信長ハ航空戰隊旗艦通信
長兼務トシ航空戰隊航空通信實施ノ統一ヲ計ルヲ可
トス之ガ爲旗艦ニ對シテハ通信長級分隊長配員ノ
要アリ

ハ綴字用換字表ハ錯誤防止ノ爲從前ノ通暗號書付
スル如クスルヲ可ト認ム

今次作戰ノ如ク練度未熟ニシテ且急速編制セル飛行機
隊ニ對シテハ現用呼丙ハ複雑ニ過ギ要務ヲ著シク
遲滞セシムルミナラス錯誤ノ因ヲナスコト多シ七日乃至
十日間ヲ週期トシテ使用シ得ル簡單ナル呼出符號
制定ノ要アリ

✓六編

制

今次作戦通信が不具合ナリシ最大原因ハ寄セ集メノ艦
 船部隊ヲ鳩合シ一回ノ部隊綜合訓練ヲモ實施スルノ
 餘祐ナカリシ点ニ級セサルヲ得ズ將來斯ノ如キ情勢已
 ムヲ得ザルモノトセバGFトシテ訓練ニ通信組織上徹底
 セル統制ヲ實施スルノ要アリト認ム

七配員

現作戦通信ノ通信要務ハ極メテ繁雜ニシテ處理ノ爲
 ニ極メテ多数ノ要務員ヲ必要トス本要務員トシテ電
 信員ノ配員困難ナル實情ナリトセバ短期教育ニ依ル要
 務専務員ヲ電信員配員ノ約二〇%程度配員スル如
 ク改善ノ要アリト認ム

（四）電波兵器最善活用、為電測科、新設及電測科長
ノ配員ハ現下、最急務ト認ム

（終）